

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300051		
法人名	株式会社 おいでの里		
事業所名	グループホーム スローシティピアノ	ユニット名	ソナチネ
所在地	宮崎県延岡市平原町 1丁目 854-1		
自己評価作成日	平成29年1月9日	評価結果市町村受理日	平成29年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanitrue&livevoCd=4590300051-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成29年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スローシティピアノでは「ゆっくり」「その人らしく」を基本とし、日々の生活の中で楽しみがあり、意欲的に過ごせるように支援しています。食事を回想療法にも取り入れ、食事形態も工夫し、食べる楽しみを持ってもらえるようにしています。医療と連携し、毎日の健康管理や感染症予防に力を入れています。地域密着としては近隣や地域の食材を利用し、ご家族やボランティア、保育園、学校等の訪問、関わりを持ち、防災についても真剣に向き合い、共助できるように努力しています。職員もスキルアップに認知症実践者研修、認知症ケア専門士を受講し、認知症に対する理解を深め、実践に活かせるようにしています。利用者様が自宅に居るような馴染み深さをめざし、ご家族や親せき、近隣、他事業者も訪問しやすい、温かく、どこか懐かしいホームとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、市内に複数の介護事業を展開し組織体制を確立しており、職員の育成にも力を入れ、質の高いサービス提供に努めている。設立当初からの職員や若い職員の意思の疎通が図られ、チームワークが良い環境で働くことや採用時の研修に時間をかけ充実させることで、理念である「ゆっくり」「その人らしく」を基本としたケアの提供につなげている。また、母体が医療法人であり、定期的な往診や日々の体調の変化を看護師から主治医へスムーズに連絡することができるなど、連携を図ることで利用者も家族も安心して生活ができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念に基づき利用者のニーズに応えられる事が出来るように、月に一度の定例会に加え、その他チーム内での話し合いにより、同じ目標を持ち理念に沿ったケアが出来るようにしている。	採用時のオリエンテーションや研修に十分な時間をかけており、理念に沿ったケアを理解している。また、毎朝の申し送りや職員会議等で話し合い、理解を深めてケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	様々な行事での交流や、防災訓練等の参加によって日常的に交流できるようにしている。	自治会に加入するなど、地域の情報を積極的に取り入れ、防災訓練への参加もある。また、近所の商店を利用するなど、地域との関係を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のボランティアや、同市内の福祉大の研修・アルバイトの受け入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、第二木曜日に運営推進委員会を開催し、活動報告、利用者の状況、また今後の活動予定等を報告している。また、それに伴い質疑応答を行い、指示・指導を仰いでいる。	利用者や家族をはじめ、多彩なメンバーで開催し、報告と共に様々な意見や提案がなされている。出された意見はホームで検討し、日々の支援に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者に、電話や、直接出向き、支援方法などを学び、且つ指導を受けている。	医療との連携に関する事など、適切に運営できているかを市の担当者に電話で尋ねたり、直接出向き意見をもらうなどしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	様々な研修や教育で学んだ事柄をチームで話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害については理解しているが、利用者の安全を考慮し、玄関は施錠し、インターホン対応にしている。昼間の解錠も検討しているが、設備集中管理の関係で、玄関だけの解錠ができない状況である。	話し合いを重ね利用者の安全を考慮しての施錠であるが、今一度、身体拘束のないケアに見直すことを期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会や、その他研修参加によって自分達が行っているケアが虐待になっていないかを確認し合い、また防止にも力を入れている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の制度について認識している。職員も勉強会等を活用し権利擁護に関して知識を得てまた認識できるように今後も教育を行っていく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際は、利用者や家族等の納得がいくまで説明を行い、締結している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、家族とのコミュニケーションを計り意見を聞いている。また、運営推進委員会を通し外部から意見を頂き運営に反映させている。	家族と一緒に昼食を食べてもらい意見を参考にするなど、管理者自ら、家族や利用者が話をしやすい環境作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見がでると、室長から管理者へ話をあげるシステムをとっている。加えて、管理者会議、リーダー会議、定例会、ユニット会議等、意見交換の場を設けている。	職員同士で意見の出しやすい環境を作り、出された意見を管理者が把握し、運営に反映している。職員の意見から介護記録等の様式を書きやすい書式に見直し、業務の効率化につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員との面談の場を設けている、その時に職員が就業環境等の話が出るようにしている。様々な意見やまたアドバイスを得る事でやりがいのあり、向上心が持てる職場環境構築へと繋げている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの社員が勉強会、研修等に参加し、スキルアップへと繋げている。また、毎月の定例会でもケアに関する教育を行い個々のケアの見直しを行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設からの見学や当施設への訪問や見学での意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃からの利用者とのコミュニケーションを大切にし、要望、困っている点等を見逃さないように努めている。また、コミュニケーションを取りやすい環境づくりにも力を入れる事で、安全に且つ安心して生活できる様努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時の家族とのコミュニケーション大切にしている。家族の不安、要望、その他、また、職員が気付いた事などの意見交換と行うことで信頼関係作りに力を入れている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が何を求めているか、どのような支援が必要かを見極める為に、事前の情報等を基に話し合いを行いサービス導入時にすぐに対応出来るように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも全て職員が行うのではなく、利用者ができる事は行っていただき、共感し、信頼し、支え合う関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係についての理解に努めている。面会時の状況報告は勿論のこと、当施設での行事等を通しての関わり合い等を通して、利用者と家族の絆が深まるように支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理・美容室や食事処に家族と出かけられている。また、家族だけではなく、昔の同僚や友人、地域の方との面会もあり、それが継続できるように支援している。	家族の協力の下、なじみの理・美容室へ出掛けたり、昔からの友人や同僚が来訪するなど、なじみの関係が続くよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事は特別な事情が無い限り全員食堂で出来るようにしている。利用者同士コミュニケーションが取れるような配置にも気を配り問題なく関わり合いが持てるように努めている。また、毎月の行事も全員取り組めるように計画している。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、支援していくように努めている。また、必要に応じ、本人、家族の経過をフォローし相談、支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の支援が出来るように、利用者一人ひとりとコミュニケーションをとるようにし、全職員で必要事項の情報の共有が出来るように努めている。	日々の支援の中で、希望や意向の把握に努めている。困難な利用者については家族から話を聞いたり、日々の表情や仕草、何か普段と違うという気づきを大切にしながら、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に、利用者の今までの生活の仕方、馴染の物や、環境などの情報を得るようにし、これからの生活が今までと大差ない様に出来るように支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子観察、バイタルチェック、介護記録、申し送りノートを作成し、朝礼や申し送り等で職員全員で状況を共有し、把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係各機関、介護、医療などを含め意見を出し合い、その意見を基に現状に即した介護計画書を作成し、家族にモニタリングを行っている。	利用者、家族の意見や要望を基に、医療との連携も踏まえながら全職員で意見を出し合い、介護計画を作成している。また、介護記録書に計画内容を記し、日々のケアとの統一を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて利用者一人ひとりの一日の様子を記録、把握し職員間で情報の共有を行っている。また気づきに関しても記載を行い実践に活かせるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・要望に応じて、柔軟な対応が出来るように支援に取り組んでいる。			

宮崎県延岡市 グループホームスローシティピアノ(ソナチネ)

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の大学、高校、中学、小学校の生徒の訪問や保育園児とのふれあい、県内からの公演や演芸によるボランティアの活動を受け、豊かな暮らしを楽しまれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力機関をかかりつけ医とし、定期的に往診があり、適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医がかかりつけ医となっており、往診体制も整っている。家族の協力の下、専門科受診を行っているが、管理者が付き添い日々様子を報告している。医師の指示等の情報は、管理者から職員に直接報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で連絡できる体制づくりをしており、介護職が日常の管理を行い、状況の変化を管理者、看護師に報告し、協力医から指示を受け、対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、家族や病院関係者と密に連絡を取り、協力医との連携で情報交換や相談に努めている。また退院についても情報交換を行い、環境を整えている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族の意向に沿って重度化や終末期について話し合い、医療との関係を図り、看取りが出来るように介護がチームとして支援している。	契約時や利用者の状況の変化に伴い、看取りに関する指針の説明を行い、本人や家族の意向を踏まえ、医療機関と連携を図り安心した最期を迎えられるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備え、応急処置や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	指定の避難場所の理解や道順を年に二回以上の避難訓練で行い、熟知している。又、非常時の備えも備蓄してある。今後は地域の方々の協力体制を築き、実施していきたい。	夜間帯を想定した職員への電話連絡訓練など、ホームでの自主訓練を定期的に行っている。また、管理者は発災時のより良い避難場所の選定などを念頭に置いている。	夜間帯の発災を想定し、近隣住民の協力を得た避難訓練の開催を考慮することを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族から利用者の性格等を教えて頂いたり、日々の生活の中から得た情報により、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応が出来るように努めている。特に排泄介助の対応方法に関してはさりげなく行う等の配慮の徹底に努めている。	接遇研修を通して、一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保に努めているが、トイレの閉塞感を嫌がる利用者に対してドアを開放したままになるなど、プライバシーを確保できないことがある。	やむを得ぬ事情であっても、プライバシーの確保は重要であるので、創意工夫したケアに努めることを期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の思いや希望に気づき、肯定し、自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日の希望に沿って支援できる様に心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、本人の意思を確認し、衣服を選択して頂く。又、月の活動予定でオシャレの日を設け、化粧やマニキュアを楽しまれている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	視覚から喜びが得られるように器や盛り付けにも注意を払っている。医療からの制限や特食を考慮した食事内容もある為、職員の工夫が必要となる。その他、手作りおやつや季節の食材を取り入れる事で、食事が楽しみとなるよう努めている。	地産の季節を感じる食材を使い、利用者の摂取に配慮した形態の食事を提供している。また、食事が楽しめるようバイキング形式や利用者のリクエストにより手作りおやつを提供するなど、食事が楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、毎食後記録を行い、嚥下困難な方には、ミキサーやトロミ、寒天等で一人ひとりに応じた食べやすい工夫をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、出来る部分は本人が行えるように準備や声掛けを行い、出来ない部分は職員が支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握する為に、排泄記録や排泄状態の観察等から情報を得るようにしている。それにより、その人にあった排泄を行えるように支援ができ、また排泄の失敗の減少に加え、衛生面でも管理できるようにしている。	排せつチェック表の活用や本人の仕草・表情から、誘導やさりげない言葉かけを行い、可能な限りトイレで排せつできるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因である運動不足や水分摂取不足を改善し、排泄状況の観察から指示の下剤を調整している。食事も繊維質やヨーグルト等、腸にいいものを提供している。また、体操の日を設け運動不足解消に働きかけている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や生活習慣に沿って、入浴日や入浴時間を決め、好みのタオルや、石鹸、その他馴染の物を使用して楽しみながら入浴が出来るように支援している。	本人の希望を踏まえ、日曜日以外に入浴できるようにしている。また、好みのシャンプーやリンス、石鹸を使い、ゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、居室の照明や温湿度等の環境整備に配慮している。寝つけない時には、話を傾聴し、安心して眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は処方箋にて職員全員が確認し把握できるようにしている。また、名前や日付を確認して服薬管理を行っている。薬の変更や留意事項は、申し送りノートに記載し、観察、報告を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いで洗濯物たたみや干し、台拭きや縫い物等を出来る範囲ですてもらう事で役割がもてている。また、感謝の気持ちを必ず伝える事でそれが楽しみとなっている利用者もいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの希望を把握し、散歩やドライブ等を行っている。又、家族の協力を得ながら、外食や外出される方もいる。	家族の協力を得ながら、買い物や外食など利用者の希望に沿う外出支援に努めている。同一法人で行われる催し物には、できるだけ全員で参加するなど外出の機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布を管理されたり、お小遣いとして事務所で管理している。お小遣いは本人の日用品等の購入を主にしている。一緒に買い物に出かける時は、本人がお金を使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、本人の希望により行っている。また、年賀状、暑中見舞い等のがきを作成する支援も行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の各部屋の清掃・換気に加え、各部屋の季節に応じた温湿度管理の徹底を行う事で、利用者に居心地の良い空間を提供出来るように努めている。また、不快や混乱を招く様な刺激等出来るだけ避けるように配慮し安心して生活できるように工夫している。	共用空間には、利用者がくつろげるようソファやテーブル、椅子を配置している。季節を感じる花を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、加湿器やエアコンで、快適に過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に一人掛けのソファや皆で座れる大きめのソファ、またテーブルもあり、自由に使用できる空間を作っている。また、中庭にも自由に出入りでき、利用者同士と一緒に草木や花を觀賞されたりといった空間を提供している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベット、エアコンのみ設置されており、他の空間は利用者が自由に使用することが出来る。植物を飾ったり、絵やカレンダー、その他馴染の家具等を自由に設置し居心地良く過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みで、使い慣れたたんすなどの家具を配置し、利用者が居心地良く過ごせる居室にしている。居室の入り口には家族との写真を掲示し、自室と分かるような工夫もなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、廊下・トイレ・玄関・風呂場等は手摺を設置している。また、職員も内部のレイアウトに注意し、危険が潜んでいないか、利用者が安全に生活できるかを常に考え安全な環境を提供出来るよう努めている。			